研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		洋上掘削施設による海洋汚染の企業環境法的考察						
研究テーマ (欧文) AZ		A research over the commercial and environmental law regime on the maritime pollution from the offshore drilling facilities						
研究代表名	ከタカナ cc	姓)コヅカ	名)ソウイチロウ	研究期間 в	2011 ~ 2012 年			
	漢字 CB	小塚	荘一郎	報告年度 YR	2013 年			
	□-マ字 cz	Souichirou	Kozuka	研究機関名	学習院大学			
研究代表者 cp 所属機関・職名		学習院大学法学部教授						

概要 EA (600 字~800 字程度にまとめてください。)

海底油田等の洋上掘削施設で事故が発生した場合には、海洋環境に深刻な損害が発生する可能性もあるため、そうした事故の予防と、万一事故が発生した場合の損害に対する賠償・補償のあり方とが問題となる。現在までに作成された唯一の国際的な枠組は、1976年の海底資源責任条約(CLEE)であるが、未発効のまま今日に至っており、実際上は、北海油田の開発を行う事業者間の自主協定(OPOL)において、条約と同様の無過失責任が担保されているにとどまる。他方、2009年にオーストラリア沖の Montara 油井が暴噴を起こした事故および2010年に米国のメキシコ湾で移動式原油掘削施設 Deepwater Horizon号が爆発した事故では、監督当局による安全規制が不十分であったことが指摘され、事故後に監督体制の改編が実施された。しかし、このように先端的な技術を駆使して開発が行われる領域では、監督当局よりも事業者に最新の知見や人材が集中するという構造があるため、監督体制の整備と並んで、民事責任の抑止効果を利用して、損害賠償制度を適切に設計することにより、事業者に安全な開発を行うインセンティヴを与えることが重要であると考えられる。もっとも、この抑止効果を十分に働かせるためには、米国の油濁法において定められているように、「自然資源損害」を、修復計画にもとづいて評価し、賠償の対象とすることが必要である。また、規制当局に対するインセンティヴとして、資源開発に対して許可を発給した国が国際法にもとづいて負担する責任について議論を深め、そうした責任をベースとした国際基金の設立なども検討に値すると考えられる。

以上のような提案については、2012年1月に北海道大学の環境法研究会において報告を行った上で、同大学が発行する『新世代法政策学研究』に公表した。当初の研究計画では、英文での公表も予定していたが、国際海事機構 (IMO)法律委員会の意向を受けて、万国海法会(CMI)が地域的枠組のモデルを作成する作業を開始したため、その動向を待って、適当なタイミングで英文の論文を執筆することとしている。

キーワード FA	洋上掘削施設	環境損害	民事責任	自然資源損害評価

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード ℸ△			研究課題番号 🗚					
研究機関番号 AC			シート番号					

発表文献(この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。)											
雑誌	論文標題GB	洋上資源開発における海洋環境の保全——Montara 油井事故と Deepwater Horizon 号事故を教訓とした立法提案									
	著者名 GA	小塚荘一郎・梅村 悠	雑誌名 GC	新世代法政策学研究							
	ページ GF	1~44頁	発行年 GE	2	0	1	2	巻号 GD	1 8 号		
雑誌	論文標題GB										
	著者名 GA		雑誌名 GC								
	ページ GF	~	発行年 GE					巻号 GD			
雑誌	論文標題GB										
	著者名 GA		雑誌名 GC								
	ページ GF	~	発行年 GE					巻号 GD			
図	著者名 HA										
書	書名 HC										
	出版者 нв		発行年 HD					総ページ HE			
図書	著者名 HA										
	書名 HC										
	出版者 нв		発行年 HD					総ページ HE			

欧文概要 EZ

The accidents on the offshore facilities for exploration and exploitation of natural resources can cause serious damages to the marine environment. The problem has come to be discussed internationally after the blowout of Montara well off the coast of Australia in 2009 and the incident of drilling platform Deepwater Horizon in the Mexican Gulf the next year. The legal scheme governing this type of activities should be designed, on the one hand, to prevent the accidents from taking place and, on the other hand, compensate the damages in case an unfortunate incident happens. The regulatory reform made in Australia and the United States in response to the two recent accidents dealt only with the realigning of the regulatory authority, leaving the issue of civil liability and compensation yet to be discussed.

Making use of the deterrent effect of the civil liability, the scheme of liability and compensation should aim at giving the right incentives to both the licensee of the exploration and exploitation of resources and the regulatory authority. As the incentive to the former, the scheme needs to require compensation of the natural resource damages assessed by the restoration plan, as has been done under the Oil Pollution Act of the United States. As the incentive to the national regulator, the international fund to be made up of contributions from the relevant states may merit consideration. The contribution can be based on the international liability of a state that had issued license to, and exercised supervision over, the exploration and exploitation of the resources.